

研究通信

No.53

1966.6刊

村落社会研究会
事務局東京都目黒区駒場町
東京教育大学農学部
農村社会学研究室内

四十一年度

共通課題きまる

村研四十一年度第二回拡大委員会は、去る四月二十日、東京教育大学農学部本館第二会議室で午後六時半より開催された。出席者は小池基之、中野卓、福武直、米地実、竜野四郎、安原茂の六名であった。

委員会は昨年から問題となつてゐる四十一年度大会の課題を主要議題としとりあげた。身延大会で決定されぬままもちこしになつてゐる「村の解体」を存続さすか、どうか、去る二月事務局から会員に送つたアンケートの結果を基にして討論がおこなわれた。アンケートの結果では、「村の解体」というテーマを引き続き存続する希望が圧倒的に多かったが、

それは必ずしも無条件ではなかつた。解体しているという「村」とはそもそもいかなる概念のものか、その規定を必要とするというものや、「解体」とともに再編成されつゝあるという側面から考察すべきである、というものの、テーマが長く存続しすぎるのでの際再検討をする、という意見もあり、要するにテーマについてはさらに徹底した討論を必要とするというのが、会員諸氏の大の方の希望であったと思われた。

以上のような認識に基いて拡大委員会では、まず「村」とは何か、「村」がどのように展開しつつあるか、という問題がとりあげられた。この問題については、近年都市化しつつある近郊村にもなお「村」的因素も強く残存し、その要素が再編入の立脚点にもなりかねない状勢であるという現状が報告された。都市・農村を一貫するこの「村」的因素は、わが国の社会構造に由来するとはいえ、その存続を支えているものは人間関係、とくに商品交換外の諸関係にほかならず、かくて、自治的・共同体的村落はこれそれそこでわかれていられない実状が検討された。次に、各地域の報告に基いて討議した結果、いわ

ゆる「村」の解体の際、大きくとりあげられるのは小生産者の問題であるとされ、小生産者－小農民が「村」をどう支えているか、どのような役割りを果しているがが、「解体」の過程において最も中心となるべき問題となる。かくて小農の動向を把握することが重要であり、土地の移動など所有形態の変化なども併せて考察すべきである、とされた。

また、「村」と外部との関連、とくに「村」と都市、農業と工業との関係に視点をおくなれば、町村合併の進行などと相俟つて、村落は以前にくらべ少からず自治的・共同体的機能を相対的に弱めしており、政治支配の場としてはいぢぢるしく後退しているので、この移行過程を前の問題点と併せて検討することができ、会員の大の方の意向に副うことになるであろうということになった。

かくて本年度の課題は

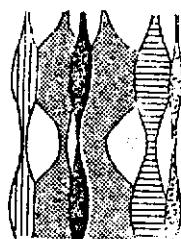
村落における権力構造の変化

一 村の解体と再編成 一

この課題について多少の註釈を加えると、テーマにいう「権力」とはいわゆる政治権力を意味するの

ではなく、村落内外のあらゆる経済的・社会的権力を包括しており、Power Structureを意味している。したがつて、「村」内のかかわる力関係や外的圧力による構造変化などもテーマの中に含まれ、家や同族関係なども当然権力構造を形成する一因子たりうると考えられよう。

なお、副題に「村の解体と再編成」をつけ加えたのは、前記アンケートの回答が「村の解体」のテーマの存続を可としており、またそれだけでなく「再編成」の動向把握もかなり多く希望されており、会員諸氏の期待に副う意味をもつてある。



五月拡大委員会報告

事務局からのお知らせ

四十一年度第三回村研拡大委員会は、五月三十日、教育大農学部本館において開催された。出席者は、中野、福武、米地、坂井、安原、田野崎、竜野、喜多野、の八名であった。まず、年報編集委員会の報告があり、年報第二集は、大会前に刊行まる予定である。なお、村研大会は、日本社会学会大会が十月二十二、三日両日明治学院大で行われる予定なので、それと重ならないよう十月十九日（水）二十日（木）の両日開催することとなつた。

なお、場所は未定であるが、決定次第会員諸氏に通知する予定である。大会発表者は七月中に事務局宛御一報願いたい。

○ 福武直氏より左の二件御依頼がありました。
1) 第二回世界農村社会學會議について
會議は一九六八年（昭和四十三年）八月末、
オランダのワーゲニンゲンで開催されます。
その主题のテーマは、

Man-Land-Relationship

a) Social System and the Pattern

of Land tenure

b) Value Systems and Man-Land relationship

c) Pattern of land tenure and their

industrial development

d) Sociological aspects of

rationalization in agriculture

という暫定的なとりあめがなされていきます。村研会員中の会議に参加したい方、参加しないでもペーパーを出したい方がおられましたら、なるべく速かに福武氏あて御連絡頂きたいとのこと。なお、セクションのメインペーパーのコ

ントリビューターに指名されると、日本から一名は可能で、その旅費はアジア財團などから出る可能性があるそうです。第一回会議には、福武氏と伊藤 章氏のペーパーが出されました。

日本からは誰も参加しなかったそうです。今回は会員諸氏のうちどなたか参加して頂きたいとのことです。

「研究テーマ一覧」（追加分）

住谷一彦（立教大）

(1) ナチス・レヂーム形成の思想的・経済的基盤

(2) 宮座的村落構造の比較社会学的研究

南西淡路島の社会組織に関する研究

中田 実（愛知大）
安孫子麟（小樽商大）

志摩漁村の研究
日本地主制史

二 福武 直編「農業の共同化と村落構造」
—昭和三十六年有斐閣刊 定価六〇〇円
を、村研会員の方々に四〇〇円でおゆずりしたいとのことです。（郵送の場合の一〇〇円増）。

御希望の方は東京大学文学部社会学研究室、宛お申しこみ下さい。

村研大会 一 予告

日程 十月十九・二十日両日、

場所 热海市伊豆山林野庁寮の予定、交渉中
決定次第御知らせします。

発表予定者は、七月中に事務局宛 氏名
テーマをお知らせ下さい。

